福井県衛生環境研究センター活動報告　概要

発表演題名	食中毒疑い事例におけるノロウイルス検査の改善に関する検討
発表雑誌名	食品衛生研究
発表者名	保健衛生部　小和田和誠
発表日	令和８年１０月
発表内容	令和７年１０月２３日に開催された令和７年度全国食品衛生監視員研修会にて発表した内容と同じ。 （以下、発表内容） 当センターにおける従来のノロウイルス（NoV）の検査では、厚生労働省通知に基づく検査法を実施している。食中毒疑い事例においては迅速な検査対応が求められていることや、近年は優れた検査試薬が上市されていることから、検査法の見直しを実施した。今回は、3 つの操作過程（逆転写反応、リアルタイム PCR、拭き取り検体の超遠心濃縮）について検討を行った。 逆転写反応については、従来法より約７０分短い検討法を用いても、検討に用いた検体の全てで従来法と同等の検出感度が得られた。 リアルタイム PCR については、従来法より約５０分短い二つの検討法のいずれも、従来法と同等の検出感度が得られた。 拭き取り検体の超遠心濃縮の遠心時間について、従来の 120 分から 60 分に短縮しても、同等の検出感度が得られた。 以上のことから、検討法に更新することで、糞便検体の場合は約 2 時間、拭き取り検体の場合は約 3 時間程度の検査時間を短縮できると考えられた。今後は、これらの検討法を食中毒検査に取り入れて、迅速に検査結果を還元していきたい。